

審査の結果の要旨

氏名 鈴木 拓朗

「うらみ」は、日本人にとって珍しくない心的状態であるが、ときに対人的紛争や犯罪行為を引き起こし、人の心の健全さを破綻させる要因にもなる。この点で「うらみ」は、さまざまな問題行動を分析する上で臨床心理学的に重要な概念である。しかし、「うらみ」の心理学的特徴を実証的に検討した研究は乏しく、統一の見解も得られていない。

そこで、本論文では「うらみ」の心理学的特徴を実証的に検討することを目的とした。本論文は、先行研究を概観して課題を明確化する第Ⅰ部、「うらみ」の心理学的構造を検討する第Ⅱ部、他の心理学的要因との関連から「うらみ」の特徴を検討する第Ⅲ部、ストーキングを動機づける「うらみ」の意味や機能を検討する第Ⅳ部、研究成果を総合的に考察する第Ⅴ部から構成される。

第Ⅰ部 1章では問題の所在を明らかにし、2章で「うらみ」に関する言語学的、文化的、心理学的な知見を概観し、実証研究が乏しいという問題点を見出し、多様な視点から「うらみ」の心理学的特徴を検討するという研究の目的を示した。

第Ⅱ部 3章(研究1)では「うらみ」を体験したことがある男女($N=14$)に半構造化面接を実施し、「うらみ」が“許せなさ”、“不公正感”、“どうしようもなさ”という3要因によって構成されていることを示した。4章(研究2)では研究1で示された知見に基づき「うらみ」やすさを測定する尺度(「うらみ」特性尺度)を作成し、尺度を標準化し($N=328$)、その妥当性を確認した($N=376$)。結果として、「うらみ」とは「許せなさ」と不公正感という外向的反応が強く現れる一方で、諦めや無力感といったどうしようもなさをわずかに感じる心的状態」であることを明らかにした。

第Ⅲ部 5章(研究3)では「うらみ」特性とパーソナリティの主要因子である Big Five との関連性を検討し($N=427$)、情緒不安定性が「うらみ」特性に正の影響を与えることを示し、「うらみ」は不安定で混乱した状態であることを明らかにした。6章(研究4)では「うらみ」特性と反芻傾向の関連性、及び再評価方略の調整効果を検討した($N=472$)。結果として、「うらみ」やすいほど反芻をする傾向が高いことが明らかとなったが、再評価方略の調整効果は示されなかった。このことから「うらみ」は、反芻と密接な関係にあるために、再評価方略を用いてもその結びつきを弱めることが難しい状態であることが推測された。

第Ⅳ部 7章では「うらみ」と関連が強いとされるストーキングに関する先行研究を概観し、ストーキングの概念整理を行なった。8章(研究5-1)でストーキング関連行動(SRB)の尺度を作成し、9章(研究5-2)では「うらみ」とSRBの関連性を検討した($N=388$)。その結果、SRBを動機づける男性の「うらみ」には攻撃的な特徴があり、女性の「うらみ」には好意の感情が混在していることが示唆された。

第Ⅴ部 10章では総合考察として「うらみ」がもつ多面的な特徴、及び精神的健康への影響を検討した上で、「うらみ」に有効な心理療法について提案した。本論文は、これまで素朴に扱われてきた「うらみ」をデータに基づいて実証的に明らかにした点で特に意義が認められる。よって、博士(教育学)の学位を授与するに相応しいものと判断された。